

そして、ほかの宗旨の寺を焼きはらっていたのです。

そこで、長泉寺中道院の五十二代の秀運法印は、元三大師像をせおって、この山伏岩の穴に
くれておられたのです。二年たつて騒ぎがおさまったころ、中道院にもどられました。

穴は、今はほとんど土にうまり、キツネやタヌキの棲み家になっています。岩の上に枝ぶりの
いい赤松がはえているのが目じるしです。

山伏岩の先に、白っぽいのと黒っぽいのと二つの大岩が並んでいます。

弁慶が、真向かいの山の清根坂から弓を射たという岩です。表面のきずは、矢が当たってで
きたそうです。

⑧ 河内桃

まだこのあたりでは米の味を知らなかった遠い昔のことです。上河内の山奥で、お百姓さんが

稗や粟のとり入れをしていると、山の上からお坊さんがおりてきて、桃の種を三つくれたのです。

種を植えて三年目に花が咲き、かわいらしい実がなりました。食べてみると、その甘くておい

しいこと。村人は山のあちこちに桃の木を植え、大事に大事に育てました。なかでも庄谷の川を

さかのぼった山は、きれいなおいしい桃が

たくさんとれたので、桃の木谷と呼ばれる

ようになりました。

千五百年あまり昔のことです。継体天皇

がまだ男大迹皇子とよばれていたころ、米

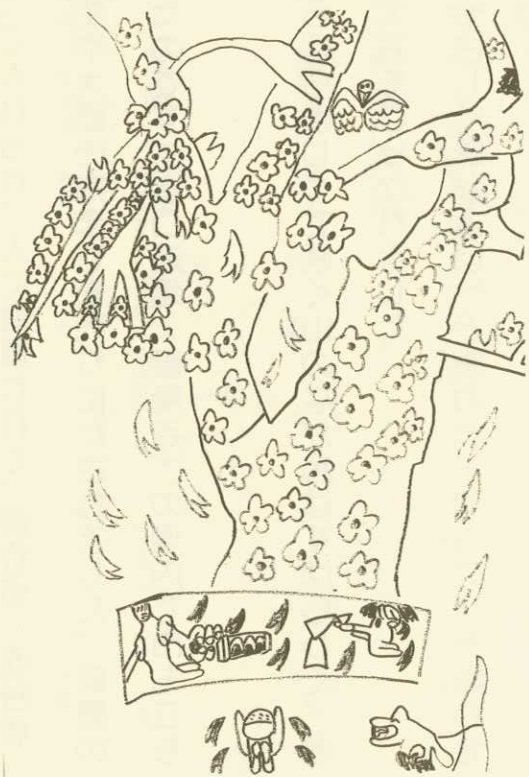
がたくさんとれるように、九頭竜川、

足羽川、日野川の改修をして、荒れ地を田

に変えておられました。この河内の山の

源流まで何度かおいでになりました。尾花には最愛の茨田ひめもお住まいです。ある日、この桃

の木谷においでになった皇子は、桃を取ろうとして、岩間にお冠を落とされてしまいました。



こわれたお冠を修繕してさしあげたのが縁で、おわん作りをすすめられ、河和田は漆器の里に発展したということです。

時はながれ、名物となった桃は、大きな竹かごに入れられ、人に背負われて、折立坂、赤谷坂、清根坂、金谷坂や西袋の坂をこえて、福井や武生や大野の方までも売りにだされました。真夏の朝早く、日くれてから提灯のあかりで坂を越したのです。水口道場（願隆寺）の境内で市も立ちました。

雪がとけて、桃色の木の間に白い花の木がちらほらまじって咲く山のながめはすばらしく、お酒を持った花見客で賑わいました。余興に相撲大会もひらかれました。

こうして「桃になりたや河内の桃に、毛だてやさしく味がよい」と唄われ、河内の村を賑わせた桃も、大きい桃が出てきて、主役の座を明け渡しました。桃のかわりに桑の木が植えられ、養蚕にはげむ時代へと変わっていったのです。